

テーマ	労務費の計算				
学籍番号					氏 名

1. 次の資料に基づき、一連の取引について仕訳を示しなさい。なお、仕訳で使用する勘定科目は次のものとする。

〔勘定科目〕

材料

仕掛品

買掛金

製造間接費

材料受入価格差異

【資料】

月初材料数量：400kg

当月材料購入量：3,500kg（実際価格@¥540 で掛けで購入）

当月材料消費量：3,650kg（すべて直接材料）

なお、当社は材料購入時に予定価格（@¥550）で受入記帳している。

また、当月において棚卸減耗は生じていない。

(1) 購入に関する仕訳

借方		貸方	
材料	1,925,000	買掛金 材料受入価格差異	1,890,000 35,000

(2) 消費に関する仕訳

借方		貸方	
仕掛品	2,007,500	材料	2,007,500

テーマ	労務費の計算				
学籍番号				氏 名	

2. 次の資料に基づき、10 月の賃金勘定、賃率差異勘定の記入を行いなさい。

【資料】

- ① 当社の賃金計算期間は 21 日から翌月 20 日としている。
- ② 当月の直接工賃金支払総額は 5,452,000 円（現金払い）、前月末払額は？円、当月未払額は？円であった。
- ③ 当月の直接工の就業時間の内訳は次のとおりである。

	定時間内作業時間	定時間外作業時間
10/21～10/31	700 時間	0 時間
11/1～11/20	2,800 時間	0 時間
11/21～11/30	900 時間	60 時間

- ④ 当月の直接工の作業時間の内訳は次のとおりである。

直接作業時間	3,400 時間
間接作業時間	320 時間
手待時間	40 時間
合 計	3,760 時間

- ⑤ 当社では直接工賃金消費額を予定賃率@1,400 円で計算する。なお、定時間外作業手当は予定賃率の 25%に定時間外作業時間を掛けて計算し、製品原価計算上、間接労務費として処理する。
- ⑥ 直接工の前月末払額、当月未払額は計算を簡便にするために予定賃率により計上する。
- ⑦ 当月の間接工賃金支払総額は 2,950,000 円、前月末払額は 500,000 円、当月未払額は 600,000 円であった。

賃 金		(単位：円)	
当月支払額	(8,402,000)	前月末払額	(1,480,000)
当月未払額	(1,965,000)	仕掛品	(4,760,000)
		製造間接費	(3,575,000)
		賃率差異	(552,000)
	<u>(10,367,000)</u>		<u>(10,367,000)</u>

賃 率 差 異		(単位：円)	
賃 金	(552,000)		